下野市立祇園小学校

１　学校課題

自分のよさを生かし、互いに学び合い高め合う児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのための授業作りを目指して～

２　研究計画

（１）主題設定の理由

昨年度に引き続き、２年次の研究主題である。子どもたちが「生きる力」を身に付け、個として確立すること、確立した個が身に付けた能力をさらに伸ばすことで自信をもち、そこで得た力がその後の自らの人生を切り開く力となっていくことを「自分のよさを生かす」と捉え、研究主題を構成する一つの視点とした。また、学校教育において、子どもたち同士で教え合い学び合う経験を通して、そこで出合う自分とは異なる多様な見方、考え方に気付き、自分の新たな力としていくことも重要であると考え「互いに学び合い高め合う」ことをもう一つの視点とした。

そこで、今年度も研究教科を算数・理科として、昨年度までの研究の蓄積を生かしながら、さらなる授業改善に取り組み、研究主題に迫っていきたいと考える。さらに、本校においても個人差が顕著になりつつあり、対応を行う必要が出てきた。研究主題に迫る中で、上位の児童、下位の児童、それぞれを伸ばすことができるようにしたい。

（２）研究の視点と仮説

研究の視点①　自分のよさに気付き、よさをさらに伸ばそうと努力する児童の育成

指導体制や方法の工夫などによる個に応じた指導の展開により、自分のよさや可能性に気が付いた児童は、学ぶことへの興味や関心をもち、さらに自己の力を伸ばそうと努力することにつながるであろう。

研究の視点②　他者との関わりの中で、多様性を認め、学び合い高め合うことができる児童の育成

学習形態や指導方法の工夫などにより、他者と関わることで気付いた多様な見方・考え方や価値観を、自らの考えに取り入れることで、自分の考えが広がり深まることに気付いた児童は、他者と協働することでさらに自分を高めようとするであろう。

研究の視点③　「主体的・対話的で深い学び」実現のための教師の指導力の向上

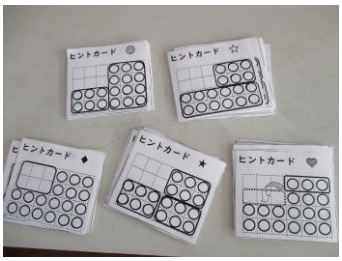
教師が、「主体的・対話的で深い学び」実現のための指導に関する理解を深め、効果的な学習指導を展開することができるなど、指導力を向上させることにより、研究主題の実現につながるであろう。

３　研究内容

（１）授業研究会の実施

今年度は、当初の計画と異なり、２回の S&U コラボ授業研究会のみとなった。指導案検討や事前授業では、全員が算数部会、理科部会のどちらかに所属するようにし、適宜部会を開いて実施するようにした。

<u>第１回　１２月２３日　２年　算数科「かけ算（２）」</u>

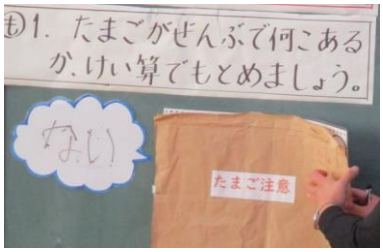


【写真①】　ヒントカード

<視点①について>　問題解決の際には、どの子も思考や試行する時間を意図的に設定した。選択式のヒントカード【写真①】を用意して必要に応じて使わせ、見通しを持った上で自分の考えを持てるようにした。上位の児童には、複数の方略を考えさせたり、ワークシートにチャレンジ問題を用意しておいたりすることで、更によさを伸ばせるようにした。

<視点②について>　一斉授業における練り上げ「集団学び」の時間の中で、多様な考えの交流ができるようにした。具体的には、自分の考えを説明したり、友達の書いた図を見てその考えを別の児童が説明したりする活動を取り入れ、見方・考え方を共有したり深めたりさせた。

<視点③について>　導入で資料の提示の仕方を工夫することで、児童の関心を高めた。また、吹き出しを活用してつぶやきや発言から大事な考えを書き留めたり、発言に対して「なぜ」「どうして」と切り返すことで、キーワードを子どもから引き出したりした。【写真②】



【写真②】導入時の様子

<u>第２回　２月３日　３年　理科「音のせいしつ」</u>

<視点①について>　個々の体験活動を充実させることが重要であると考え、個人実験の実施により、高められた関心や意欲を実生活と結びつけて考え、科学的な見方・考え方を使って自然事象を捉えながら、確かな学力へとつながるよう指導した。【写真③】

【写真③】個人実験の様子

<視点②について>　遠く離れてできる糸電話の実験を、他者と「自然事象の共有」ができる貴重な場面と捉え、単元の導入で取り入れた。

<視点③について>　「結果の共有」の場面において、教師が発問を工夫しながら、児童と児童の発話をつなぎ、学びをコーディネートすることでねらいに迫った。

（２）一人一授業公開の実施

普段の授業を互いに見合うことで､授業力の向上を図ることをねらいとした授業公開を実施した。今年度は、学校課題の教科にしぼらないこととし、事前に指導略案の配付をし、略案は校務フォルダへ保存することとした。

（３）授業観察用シートの活用

昨年度に引き続き、授業参観の際、授業観察用シートを活用し、授業を見合うようにした。授業後、シートを用いて授業者と参観者が授業について話し合う様子が見られた。

（４）授業振り返りシートの活用

今年度新たな取組として行った。適宜学習指導主任の呼びかけで、自身の授業を振り返るために使用した。

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

①　コロナ禍における学びの形態として､グループやペアの活動を取り入れることが難しくても、教師が児童の発話をつなぐコーディネート力を発揮することで、一斉授業の形態でも児童同士が対話的に学び合う様子を確認することができた。

②　S&U コラボ授業研究会では､他校の先生方に来ていただくことはできなかったが、大学の先生の話を聞くことができ、一斉の形での学び合いや、思考を促す発問についての教員の理解が深まった。

③　授業研究会は、２回のみの実施となったが、第１回から第２回へと系統立てた取組をすることができた。

④　一つの授業を多くの目で見て考えることで、授業者が気付かなかった子ども同士の学び合いや思考過程を発見することができた。

【写真③】授業研究会の様子

⑤　一人一授業の公開を研究教科のみとしなかったため、道徳、外国語等、様々な教科の授業を参観する機会となり、それぞれの教科における学校課題への迫り方を確認することができた。

（２）研究の課題

①　研修を最小限にしたため､十分な研究ができなかった。

②　学力の二極化が進んでいる現状から、個人差への対応を踏まえ、学び合いという観点での対応などの方策を考え、どの児童にとっても深い学びにつながる取組を考えていく必要がある。